

村郷土史編纂委員

熊谷文弥さん

普代村



普代村郷土史編纂委員
熊谷 文弥さん
(東京都在住)

93号

年月日 階級 氏名

19・10・29 飛長 太田吉五郎

出身期 所属 機種

丙飛 13 653空 零戦

装備 発進時刻 発進基地

直掩 ○九四五 第一二コルス

目的 出身地

西太平洋方面 普代村

至誠隊直掩

この故太田吉五郎飛行兵曹長についてさらに詳細を知ることができた。

筆者の弟熊谷義重の知人で、秋田県出身佐々木治男という特攻隊に詳しい人が、平成十三年六月と七月の二か月間太田吉五郎海軍飛行兵曹長について防衛庁戦史部の記録を調査し、熊谷義重と二人がかりで照合を行い連絡してくれた。要約すると次のようであった。

岩手県普代村太田吉五郎飛行



故太田吉五郎さん(左)と父親の太田金之助さん(故)。父親が面会に行ったとき写した記念写真

兵曹長

昭和十七年六月 横須賀海兵団航空科入隊大分基地にて飛行訓練

昭和十九年四月 海軍第六五三航空隊配属

十月十四日 直掩隊編成第三中隊第五小隊の四番機(零戦)

大分基地より沖縄基地へ進出

十月十五日 索敵攻撃のため零戦十機宮古島基地発進太田飛

長は石森中隊第三小隊三番機として参加、敵戦闘機三十機と交戦、太田飛長一機撃墜

十月十八日 B29三十機

来襲零戦十二機で邀撃太田飛長第一小隊四番機

十月二十四日 フィリッピン

ラモン湾東方敵機動艦隊攻撃の直掩零戦七機で発進、敵グラマン百機と対戦。十一機撃墜

十月二十九日 太田吉五郎飛行兵曹長最後の攻撃

神風特攻隊至誠隊直掩及び戦果確認

零戦二機(太田飛長第一小隊二番機)

フィリッピンニコルス基地発進

F6、F10機と交戦一機撃墜、未帰還二機

太田吉五郎飛行兵曹長は昭和十九年十月二十九日朝、フィリッピン・マニラ沖洋上において敵機動艦隊に突入散華されたと推察されます。 合掌

調査・考証 佐々木治男 熊谷 義重

故太田吉五郎飛行兵曹長の任務について「直掩」という言葉が見られる。直接掩護(援護)の略であるがこの「直掩」には、航空兵の中でも特に技術の優秀なる者が選ばれたという。その理由は、三つの特別義務が課せられたことにある。「攻」「守」「報告」の三つであり直掩機のうちの二機は必ず基地に帰還し戦況その他を報告せねばならないという義務である。

わが郷里普代村にかつてこのような青年が存在したことを村民は誇ってよい。

文献

- 一 最後の零戦 白浜芳次郎 朝日ソノラマ一九九三年
- 二 空母零戦隊 岩井 勉 朝日ソノラマ一九九四年

村郷土史編纂委員

熊谷 文弥